様式C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　３月３１日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：平成17年度～平成20年度
課題番号：１７３２０１２９
研究課題名（和文）　山岳信仰の考古学的研究

研究課題名（英文）　Archaeological studies on the sacred mountains’worship

研究代表者　橋本裕行

研究成果の概要：
奈良県吉野山中には、承保 3（1076）年に白河天皇の発願によって建立された石蔵寺宝塔院跡と推定される上岩倉遺跡や、寛弘 4（1007）年に藤原道長が御嶽詣の帰途に立ち寄った金照坊跡説がある「金照坊」地区に大規模な平場遺構群が存在する。それらの測量調査を実施し、その規模を初めて明らかにした。また、国内外の山岳信仰遺跡等の踏査、山岳信仰遺跡リストおよび関連文献一覧表の作成、成果報告書の出版等を行なった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　　計
１７年度	5,400,000	0	5,400,000
１８年度	4,200,000	0	4,200,000
１９年度	2,900,000	870,000	3,770,000
２０年度	2,100,000	630,000	2,730,000
年度			
総　　計	14,600,000	1,500,000	1,610,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・考古学
キーワード：考古学

１．研究開始当初の背景
（1）大峰山寺本堂解体修理に伴う調査
奈良県立橿原考古学研究所は、奈良県吉野郡天川村大字洞川の山上ヶ岳山頂付近に所在する国指定重要文化財大峰山寺本堂解体修理に伴い、1982 年から 3 ヶ年の発掘調査を実施した。その結果、平安時代の整地層から 10 世紀代の所産と考えられる護摩壇遺構が検出されるとともに、古墳時代の鈴杏葉、和同開珎、奈良三彩等、6 世紀代から 8 世紀代に遡る遺物が出土した。また、本堂下の整地層内から 2 体の黄金仏が出土したが、これらは、『日本紀略』醍醐天皇延喜 5（905）年 9 月某日記事「太上法皇参詣金峰山寺」に記載された、宇多法皇参詣の折りの奉納品と推定されている。
この大峰山寺本堂解体修理に伴う発掘調査成果は、大峰山に関する文献記録の正当

性と、伝承の中に含まれる史実の重要性を提示した点で極めて重要である。

（２）大峰奥駈関連遺構の踏査・測量・発掘

大峰山寺本堂地下遺構調査以後(財)由良大和古代文化研究協会等の研究助成を受け、大峰奥駈道全行程の踏査・笙ノ窟(『北野天神縁起絵巻』に登場する峯中の代表的な参籠所)、深仙宿跡（峯中最高の秘儀である深仙灌頂が執行される場所)・小篠宿跡(真言系当山派修験宗の重要拠点)の測量および笙ノ窟の発掘調査を実施(1993 ～ 2001 年)。

（３）吉野山南部遺跡群の測量

大峰奥駈道関連の主要遺跡の測量が完了したため、2003 年から吉野山南部遺跡群の踏査および測量に着手。吉野山南部遺跡群内の安禅寺地区の測量調査を実施し、吉野山奥院として栄えた安禅寺蔵王堂跡およびその周辺の平場遺構群の規模を明らかにした。

２．研究の目的

廃仏毀釈を契機として多くの山岳寺院が廃絶し、また、近代化によって過去の民衆の信仰を集めてきた寺院以外の山岳宗教施設が廃れ、歴史から消え去りつつある。それらの痕跡は、わが国固有の基層文化を形成した遺跡であり、それを研究対象とすることは、わが国の歴史学にとって極めて有意義なものであると考える。そこで、吉野山南部遺跡群をフィールドワークの対象として選び、測量と踏査を実施しながら、山中に埋もれた古代から近世にかけての遺跡・遺構分布および遺物散布情況を把握するための基礎資料を作成することを目的とした。

３．研究の方法

（１）総論

測量調査対象地は、奈良県吉野郡吉野山所在の「金照坊」地区・上岩倉遺跡、悉皆踏査範囲は水分神社付近から高城山にかけての主稜線の両斜面および岩倉集落の南側を東西に走る谷（「在家谷」）の南側にある尾根筋とし、原則として測量調査作業と平行して踏査を実施した。

また、上記の調査以外に国内の山岳信仰遺跡のリストおよび関連文献リストの作成。それに基づく国内外の山岳信仰遺跡の踏査。

（２）測量

測量は以下の方法で実施した。

①トータルステーションと手持ちプリズムで、単点の三次元データを取得（密度は 3 mメッシュ程度)。

②データを PC に転送し、専用ソフトウエアーで等高線を自動描画させ、粗図を作成(DXF 型式)。

③粗図を現地で補足し、それに基づき PC 上でデータを集成・製図。

（３）踏査

踏査範囲内に林業用の作業道が縦横に走っているのを利用し、その小径伝いに平場や石垣、斜面のカット面等の有無を確認。踏査は複数名で実施し、吉野町全図（1　2,500

吉野都市計画図）のコピー・エスロンテープ・筆記用具・デジタルカメラ・遺物袋等を携行。平場等の遺構を確認した時点で、地形図上にその位置を落とし、エスロンテープで規模を計測し、その形状と計測値を野帳に記入。また、必要に応じて現況写真を撮影するとともに、遺物散布の有無を確認し、表採遺物はラベルに必要事項を記入した後、遺物袋に収め持ち帰える。踏査と平行して、地元住民または関係者からの聞き取り調査の実施。

４．研究の成果

（１）測量

上岩倉遺跡・「金照坊」地区の測量調査を実施し、現況図の作成とその規模を明らかにすることができた。

上岩倉遺跡の図化面積は 22,000 ㎡、最大比高は 49.2 m、「金照坊」地区の図化面積は 24,400 ㎡、最大比高は 76.9 mであった。

上岩倉遺跡の平場遺構は、標高 575 ～ 582 m付近を走る山道に沿って分布しており、その平面的な広がりは東西 270 m、南北 170 mにおよぶ。各尾根とも、一つの大型平場を中心として、周囲に小型平場が散在する形で、三つの尾根ごとに平場のまとまりがみられることが明らかとなった。

「金照坊」地区の 10 ヶ所の平場遺構は、急な斜面の各所に散在しており、その分布範囲は、標高で 562 ～ 618 m、平面的には、東西 160 m、南北 170 mにおよぶことが明らかとなった。

（２）踏査

踏査の結果、未周知の平場遺構を多数確認し、そのまとまりごとに地区名を付けた。それらは、水分神社東北地区・城（丈）の橋地区・高城山地区・子守西地区・「金照坊」地区・「金照坊」西方地区・岩倉千軒地区（現岩倉集落)・上岩倉遺跡・上岩倉下方地区・鎌倉千軒地区・鎌倉千軒南方地区・鎌倉千軒跡上方地区・高山上人堂跡・牛頭

天王社地区の 14 地区である。各地区の平場の数は、水分神社東北地区 7・城（丈）の橋地区 15、高城山地区 14、子守西地区 4、「金照坊」地区 12、「金照坊」西方地区 2、岩倉千軒地区（現岩倉集落）12、上岩倉遺跡 16、上岩倉下方地区 5、鎌倉千軒地区 3、鎌倉千軒南方地区 4、鎌倉千軒跡上方地区 7、高山上人堂跡 1、牛頭天王社地区 5 である。

これらの平場遺構群のいくつかの地点に於いて須恵器・土師器・黒色土器・瓦器等の破片が採取し、岩倉遺跡や「金照坊」地区では、9 世紀ないし 10 世紀代にはすでに建物が存在した可能性が極めて高くなった。

（３）吉野山南部遺跡群の歴史的位置づけ

吉野山南部遺跡群中の上岩倉遺跡と「金照坊」地区は、大規模な平場遺構群とそれに附随する小規模な平場遺構群とによって構成されており、他の地区に比してその規模が際立っている。測量調査の結果、上岩倉遺跡 A 地点平場 1 の面積は 2070 ㎡、「金照坊」地区平場 1 の面積は 1200 ㎡以上で、吉野山奥院として栄えた安禅寺蔵王堂跡の平場面積約 1000 ㎡を凌駕している。また、その立地が吉野山主稜線の近傍という点からしても、非常に有力な寺社院坊であったことが確実となった。残念ながら、早くに廃絶したためか、遺跡に関する確実な記録は残されていない。しかし、上岩倉遺跡平場 1 の中央に位置する一辺 10 ｍの方形土壇は、塔の基壇と考えられ、すでに指摘されているように白河天皇の発願による石蔵寺宝塔院である可能性がより一層高くなった。遺跡内に散布する遺物は、11 世紀後半～ 12 世紀前半の所産と考えられる土師器皿が主体であり、承保 3（1076）年、白河天皇の発願によって石蔵寺宝塔院が建立されたことが史実であれば、採取遺物の時期とも矛盾しない。

一方、「金照坊」地区については、寛弘 4（1007）年、藤原道長が御嶽詣の帰途に立ち寄り、「其寺甚美也」と記した金照坊跡に比定する根拠は明白ではないものの、立地条件が良く、その規模も吉野山南部遺跡群中屈指のものであり、なおかつ散布する遺物から 9 世紀ないし 10 世紀代にはすでにここに建物が存在した可能性が極めて高くなった。したがって、金照坊跡である可能性も十分考えられる。

今回の悉皆踏査では、上記２遺跡以外にも水分神社東北地区・子守西地区・城（丈）の橋地区において、須恵器の破片を採取した。いずれも 8 ～ 9 世紀代の所産とみて大過なく、須恵器片が複数の地区から採取できたことを勘案するならば、この地域の開発は古代に遡る可能性が極めて高いと考えられる。このことは、吉野山は象谷沿いに、まず吉野山南部の「奥之院」から開かれ、後に山下蔵王堂へと展開したとする宮坂敏和の推定をいみじくも考古学的方法によって裏付ける結果となった。

（４）その他

①山岳信仰の山一覧表の作成。
②山岳信仰関連文献一覧表の作成。
③科研成果報告書の出版。

（５）今後の展望

本研究は、長期的展望に立っており、その途上に於いて基礎資料を蓄積し、それらの分析を通して、各遺跡の現段階における意義付けを行なうことを主眼としている。したがって、将来の学際的研究（歴史学・民俗学・宗教学・歴史地理学・地質学等との共同研究）の発展・展開のための基礎資料の収集と充実という側面が強い。

ところで、吉野山は吉野杉の人工林に覆われており、発掘調査は容易にはできないが、伐採時期に合わせて発掘調査が実施できれば、これらの遺跡および遺構の性格を明らかにすることが可能となる。今後の課題としたい。また、これだけ大規模な遺跡群が良好な保存状態で残されており、大峰奥駈道が国史跡に指定され、世界遺産に登録されたことを勘案するならば、これらの遺跡群をも追加指定し、保存整備することが望ましいと考える。その際にも、今回の測量図が大いに役立つことは言うまでもない。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

１．橋本裕行、「封禅と道長」、『王権と武器と信仰』、無、2008、pp.952-962。
２．大西貴夫、「古代の山寺の多様性について―大和の国の山寺構成―」、『王権と武器と信仰』、無、2008、pp.926-936。
３．大西貴夫、「弥山山頂の調査」、『青陵』、無、2008、pp.1-4
４．橋本裕行、「葛城山採取遺物とその評価」、『青陵』、無、2007、pp.8-11。
５．橋本裕行・入倉徳裕、「吉野山南部遺跡群の基礎調査」、『日本考古学協会第 73 回総会発表要旨』、無、2007、pp.66-67。

〔学会発表〕（計 1 件）

１．橋本裕行、吉野山南部遺跡群の基礎調査、日本考古学協会第 73 回総会、2007.5.27.、明治大学。

〔図書〕（計　1　件）
１．橋本裕行編、(株)明新印刷、山岳信仰の考古学的研究ー吉野山南部遺跡群の測量・踏査報告等ー、2009 年、142 頁。

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

○取得状況（計　件）

〔その他〕

６．研究組織
(1)研究代表者
橋本裕行（HASHIMOTO　HIROYUKI）
奈良県立橿原考古学研究所・埋蔵文化財部・総括研究員
研究者番号：80270776
(2)研究分担者
入倉徳裕（IRIKURA　NORIHIRO）
奈良県立橿原考古学研究所・埋蔵文化財部・総括研究員
研究者番号：30203342
卜部行弘（URABE　YUKIHIRO）
奈良県立橿原考古学研究所・附属博物館・総括学芸員
研究者番号：70260370
大西貴夫（ONISHI　TAKAO）
奈良県立橿原考古学研究所・附属博物館・主任学芸員
研究者番号：80260371

(3)連携研究者
椙山林継（SUGIYAMA　SHIGETUGU）
國學院大學・神道文化学部・教授
研究者番号：90158973
茂木雅博（MOGI　MASAHIRO）
茨城大学・人文学部・名誉教授
研究者番号：70134161
菅谷文則（SUGAYA　FUMINORI）
滋賀県立大学・地域文化学部・名誉教授
研究者番号：10275175
小澤　毅（OZAWA　TUYOSHI）
奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター・遺跡調査技術研究室長
研究者番号：00214130